

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670100035
法人名	社会福祉法人 さわらび会
事業所名	グループホーム野バラ
所在地	徳島県徳島市名東町2丁目456番地
自己評価作成日	平成25年12月11日 評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先 <http://www kaigokouhyou jp/kaigosip/Top do?PCD=36>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	平成26年1月15日

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 GH野バラ 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が書いてくれた理念を見やすい所に掲示し常に念頭において支援している。利用者も読んでいる時がある。	事業所は、地域密着型サービスの意義、役割をふまえた理念や目標を掲げ、全職員で共有している。利用者が、地域の人とふれあい、その人らしく喜びと安らぎのある穏やかな生活が送れるよう、職員間で繰り返し話しあいを行い、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事や地域活動への参加、保育園児や小学生との交流、地域の方のボランティア訪問もあり交流が持てている。	事業所内で行われる、コンサートや敬老会へ地域住民を招待したり、ボランティア講師による折り紙教室や唄の会への参加が、利用者の楽しみとなっている。職員は、スタッフとして地域行事へ参加をしたり、地域の保育所や支援学校との交流や学生・研修生の受け入れも積極的に行なうなど、地域との相互関係の構築に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事参加を通じて事業所の事を理解してもらっている。家族の悩みを聞き相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や活動、研修内容の報告行い、利用者や家族・民生委員・地域包括職員から色々な意見を言ってもらい事業所の改善に繋がっている。	運営推進会議では、運営や行事、環境等について多くの意見やアドバイスを頂き、サービスの質の向上に活かしている。防災座布団作成や事業所内ホールや共有スペースを地域の防災行事に使用して頂くなどの議題もあがり、利用者や近隣住民が地域で安全に生活していくための話しあいの場ともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護ながいき課の担当の方に相談し分からぬ部分は指導してもらっている。	職員は、市の担当窓口へ出向き、利用状況の報告や情報交換、課題解決に向けたアドバイスをもらうなどしている。相談や報告を行うことにより、協働関係が構築され、保険者等から得た助言や意見は、サービスの質の向上に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における勉強会を繰り返し行い、玄関は鍵をかけず明けると、チャイムが鳴るようにしている。一人ひとりに合ったケアを行っている。	職員は勉強会や研修会に参加し、つねに安全を確保しつつ利用者の自由な活動を支援していくため、話しあいや振り返りを重ねている。毎月委員会も開催し、心理的拘束についての正しい認識や人権を尊重したケアのための取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所での虐待が見過ごさることがないよう注意を払い、防止に努めている	年間の勉強会に虐待防止を取り入れ学んでいる。職員のストレス軽減やチームワークも考えて状態観察している。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	GH野バラ 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、年間の研修に取り入れて勉強している。運営推進会議でも話を聞ったりしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解・納得の上で契約している。改定の時は一人ひとりに説明を実施し理解してもらっている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見を重く受け止めできるだけ反映している。家族には職員が機会がある時に聞き改善している。	職員は、家族の来訪時や利用者との会話や関わりのなかで、意見や要望を引き出しやすい対応に努めている。また年1回、家族会を開催し、出された意見や要望を関係者間で話しあうことにより、さらなるサービスの質の向上に繋げている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、日常業務の中で話合いができる。職員一人ひとりの意見を反映できる状況になっている。	管理者は、ミーティングや日ごろの会話のなかで、職員が意見を表しやすい雰囲気づくりを心がけている。また、代表者や管理者は、4つの委員会での議論を通して、職員の意見を引き出し、運営面や業務に反映させ、職員の意欲向上や働きやすい環境づくりに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ努力や実績を評価している。同時に面接行い話し合いも実施されている。随時業務の見直しも行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内で毎月、勉強会を行い知識を広めている。外部研修にも積極的に参加し職員同士の向上に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会を行っている。問題点についての話し合いも行い解決に対しての意見をもらったり、共にサービスの質の向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	GH野バラ	実践状況	実践状況	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
				実践状況				
Ⅲ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		生活背景や心身の状況を把握しゆっくり話を聞き何を思っているのかを傾聴し信頼関係をもてるよう努めている。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		面会時に話をしながら要望や希望を聞き利用者に対する家族の思いを受け止め信頼関係が持てれるように努めている。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		家族と利用者のニーズを理解し医師や他の事業所のケアマネージャーとも連携しながら最良のサービスを選択してもらっている。				
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		日常生活で助け合い、支えあう中で信頼関係ができ日々の家事等可能な限り一緒に協力して生活できている。				
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている		家族の思いを受け止め相談し合える関係を築いている。遠足・家族会・行事等に参加して頂き利用者が喜ばれる支援を行えている。				
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		住んでいた家に行ったり古くからの友人に会ったり、手紙や電話など様々な方法で支援を行っている。		職員は、利用者がこれまで培ってきた人間関係や地域社会との関係把握に努めている。利用者は、馴染みの美容院に出かけたり、友人や親族の来訪もある。また、知人と手紙のやり取りや電話での会話を支援するなど、利用者が培ってきた繋がりが継続するよう働きかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている		気の合う方同士の関係が自然にできている。又利用者同士の関わりが増えるように職員も間に入り関係づくりを支援している。				

自己	外部	項目	自己評価	GH野バラ 実践状況	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
					実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている		他の施設に移っても面会に行き生活状態の細かな情報を伝えている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		日常生活で本人の意思を確認しその方の思いや希望を優先したケアを心がけ、問題がある場合は気持ちを察した考えを職員間で検討している。	事業所は、センター方式アセスメントを利用し、利用者を取り巻く関係者とともに意向の把握に努めている。担当制をとっており、職員は利用者に寄り添い、表情やしぐさからも思いを読み取り、関係者間で利用者の視点に立った話しあいが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		日常、本人家族から情報を得られるように聞き取り、回想法を通じて生活歴・暮らし方を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		一人ひとりのその日の心身状態を正しく理解できるように努めている。認知症が進行し不安定な方の変化を見逃さないように全職員が情報共有し対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している		本人や家族の要望を職員間で話あい課題分析し医師や看護師・栄養士・理学療法士の意見も反映している。	本人や家族、担当者により意見や情報を得て、一人ひとりの希望に添った支援ができるよう、話しあいが行われている。定期的にモニタリングを行い、身体状態や要望の変化に応じて見直しが行われている。担当者が家族に送付する便りによって、利用者の生活状況を知って頂く機会も設けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		日々の様子で変化のあったこと細かな会話も介護記録に記入している。毎月介護計画の実施状況を評価し次月に反映できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		全ての診療科において、通院介助を行っている。又リハビリ通院や美容院等の送迎も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	GH野バラ 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護・看護学生の実習や保育所・小学生との交流等を積極的に実施している。消防署には非難訓練のほか緊急時の対応等の勉強会をお願いしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に必ず確認して希望する病院に受診し、継続した治療と通院にも対応している。夜間の急な対応は嘱託医と連携し、診療情報の提供等行っている。	家族の協力のもと、本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。医療処置や経過観察が必要な利用者には、協力医療機関の看護師が定期的に訪問し、状況把握を行い主治医との連携も密に行っている。緊急時には、協力医療機関が対応可能なシステムも構築できている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の来訪があり、バイタル測定や状況観察、相談を行っており、看護師は9名の利用者の状態を把握できている。又、常に連携し来訪や処置など対応できている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	頻回に連絡を取り合い協働できている。入院時には、たびたび面会に行き状況把握に努め、早期の退院を支援している。面会時の様子は職員間で周知できている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員の連携体制や力量、他の利用者への影響などを考慮し体制作りに取り組んでいる。重度化した方については家族の意向を優先し、医師や看護師と連携を取りながら安心して過ごしていただけるよう支援している。	事業所の方針や対応等については利用開始時に、本人や家族へ説明を行っている。また、利用者の状況に応じて、かかりつけ医や家族と繰り返し話しあいを行い、関係者間で対応方針の共有を図っている。現在、看取りの実施には至っていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	事業所内外の研修を年間計画に取り入れ、全職員が繰り返し勉強している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者と共に非難訓練を実施している。1回は消防士の参加もあり、初期消火や避難誘導等を指導してもらっている。又非常用品の設備もできている。地域との協力体制は会議で話し合っている。	年2回、併設ケアハウスと協力し、利用者とともに防災訓練を行っている。消防署指導による、消火訓練等、実践的な取り組みも行われている。また、事業所内共有スペースを地域の避難場所に提供する検討も行き、地域の防災拠点としての協力体制にも努めている。3日分の非常用備蓄も整備している。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	GH野バラ 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた言葉かけや対応を心がけている。不適切な言葉使いや態度が見られた時には管理者から注意をしたり話し合いをしたりしている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、日々のケアに努めている。利用者が自己決定しやすい声かけや環境づくりに取り組んでいる。また、委員会活動や各種研修会を通じて、職員はつねに自分のケアの振り返りを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方にはゆっくりと希望を聞き職員側から決めないように配慮している。意思表示が困難な方は表情から読み取るように配慮している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを優先した暮らしを支援し家庭的にゆっくり、好きなことができる環境を整えられるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日同じ服装にならないように注意し新しい洋服も職員が家族の代わりに選んだり、本人と買い物に行き好きな服を買ってもらえるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付けなど食事準備はできるだけ参加してもらっている。食事の時間を楽しんでもらえるように努めている。	利用者と職員は、一緒にテーブルを囲み、会話をしつつ食事を楽しんでいる。事業所で収穫した旬の作物や差し入れの野菜等が食卓に上ることもある。事業所は、食材の下準備や片付け、おやつ作りなどを通じて、利用者一人ひとりの関心や力量に応じて力が發揮できるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録し適切な摂取ができるように努めている。一人ひとりの咀嚼・嚥下力に合わせて、食事形態の食事形態の工夫や自助具の使用を対応している。摂取量の少ない方は間で好きな飲み物を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを実施し、清潔保持をに努めている。歯科受診し磨き残しがある方には細かな声かけを行い残歯ができるだけ保てるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	GH野バラ	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録することで一人ひとりの排泄パターンが把握でき個々にあった支援ができている。できるだけ布パンツで過ごしてもらえるように努めている。又プライドを傷つけないよう配慮している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄を支援している。職員は、プライバシーを損ねない介助を心がけている。トイレでの排泄回数が増えたり、自らトイレに行く人もあり、生きる意欲や身体機能の向上にむけた取り組みがされている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前に、牛乳・ヤクルトを飲んでもらったり、毎食後手作りの寒天ゼリーを食べてもらい便秘の予防に努めている。便秘に効果のある食品の摂取も心がけている。適度な体操・散歩も実施している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわず、個々にそった支援をしている	家庭での入浴に近づけるように夕食前に支援している体調を考慮しながらゆっくり入浴して頂いている同棲介助の希望にも対応している。	利用者の希望や体調に応じた入浴ができるよう支援している。職員は、利用者の羞恥心や不安感を取り除くよう配慮し、状態にあわせ、くつろいだ気分で入浴できるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中で活動量を増やすことを重視し好きな時に昼寝や休息もともらっている。夜間は水分補給や安心して眠れるような言葉かけを心がけており室内温度や照明を好みに合わせている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病気と内服の内容がわかる資料をいつもすぐみられるようようにしている。臨時に処方された薬はミスがないように周知徹底し二重チェックしている。日々の状態観察や医師との連携に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・洗濯たたみ等、一人ひとりが出来る事を手伝ってもらい日々の張り合いとなっている季節ごとの行事や干し柿・漬物等実際に作る機会を増やす支援をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春・秋の遠足・阿波踊り見物に出かけ楽しんでもらっている。散歩に近所の寺院に行く機会を増やしている。近隣のスーパーに買い物に出かける支援もしている。	利用者と職員は、日常的に周辺の散歩や神社等に出かけている。重度の利用者も車いすを利用し、農園への散歩やひなたぼっこなど、戸外で活き活きと過ごせるような工夫が行われている。誕生日には担当者と話しあい、本人の行きたい場所に出かける支援も行われ、特別な楽しみの時間となっている。		

自己	外部	項目	自己評価 GH野バラ 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の意見を聞き力量に応じて支援している。常に小銭を入れた財布を持っている人もいる。外出の時だけ本人に持つてもらい自分で支払っている人もいる。通販を利用する方の支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より家族に電話をしたいと希望ある時はそばで見守り自分で番号をおしてもらっている。間で友達へのハガキ、年賀状を書く支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々のテーブルに思い出の写真等飾り日々の会話に繋がるように支援している。季節の花を活けるように心がけている。折り紙の作品を作り壁に掲示したり居室に飾り喜こんでもらっている。	生活の流れや利用者の居場所が分かりやすく、機能的な造りとなっている。折り紙教室の作品を掲示したり、定期的にオルガンを囲んでの唄の会や音楽療法も実施され、利用者と職員が自然と集う居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの状態にあつた椅子に座ってもらい居心地の良い空間を作る支援をしている。気の合う同士テレビを観たり会話をとり和やかな雰囲気を持つように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や物品、家族との写真、好きな絵や花等一人ひとりの好みに合わせている。	各居室には洗面台とトイレが設置され、プライバシーを大切にした造りとなっている。使い慣れた家具や家電等を持ち込んだり、家族の写真や作品を飾り、その人らしく暮らせる部屋となっている。家族や知人の来訪時は、居室で気兼ねなく会話を楽しめている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルや椅子の配置、ドアの目印・混乱する物の排除等一人ひとりの状態に合わせた環境作りに努めている。		